

顔の見える木材での快適空間づくり事業

事業実施主体

NPO法人木育・木づかいネット・優良教材株式会社

実施体制・連携グループ

○事業検討委員会の設置(連携グループ)

横浜国立大学准教授

小林 大介 氏(学識経験者)

竹広林業株式会社

高木 大輔 氏(神奈川県)

有限会社創林(木まま工房木楽里)

井上 淳治 氏(埼玉県)

京和木材株式会社

青木 健太郎氏(東京都)

特定非営利活動法人ちば里山センター 伊藤 道男 氏(千葉県)

○オブザーバー : 現職の小中学校教員、教科書出版社など

【テーマ】地域材で学ぶSDGs教材の開発プロジェクト

背景と目的

【背景】

- ・学校の教材は外国産材や合板MDFなどで、地域材で学ぶ機会がない
- ・地域やSDGsなどへの関心から教材としての普及の意義が高い

【目的】

- ・首都エリアの地域材を使った学校むけ教材を開発し、その普及を図る

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

- 1) 小学校図工において使用する地域材ものづくり教材
端材や工場残廃材等を含めた地域材の有効利用としての教材化
例えば小学校3年生、6年生向けの教材
- 2) 中学校技術・家庭科で使用するものづくり教材(小型家具)
A材とともに、節などを含むB材等を含めた地域材の高付加価値利用
- 3) 学校における実践のための指導マニュアル、デジタル副教材
- 4) 開発する教材の普及販売のためのツール

写真・図等



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

①事業検討委員会の設置と検討

事業の円滑な実施のための助言と協力の体制づくり

- ・課題に応じたワーキンググループの設置、オブザーバーの招聘

②地域材を使ったSDGs教材の開発

より良い製品づくりのための調査と試作の実施。

- ・既存の学校用教材(小学校、中学校)の分析と問題点の抽出
- ・地域材を利用した教材の開発と材料供給、加工、コストの検討
- ・学びの付加価値を高めるデジタル副教材の開発

③教材の効果検証に向けた試行実践

試行授業や現職教員による教材の評価と改善の実施

- ・現職の学校教員等による教材の評価
- ・学校における試行実践と効果分析(1~3校程度)
- ・教材の普及、流通販売に向けた課題の抽出と解決方法の模索

価格競争力を持つ魅力的な教材の開発、地域材利用の拡大

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

事業検討委員会

事業検討委員会

事業検討委員会

事業検討委員会

現状調査・情報整理

教材の試作

教材の評価

教材の改善

試行実践

成果分析